

赤瀬川原平・畠山直哉・内藤礼・伊藤存・青木陵子・島地保武

開催のお知らせ

資生堂ギャラリーでは2016年4月28日(木)から6月19日(日)まで「椿会展2016 - 初心 -」を開催します。「椿会」は、1947年から続く資生堂ギャラリーを代表するグループ展です。時代とともにメンバーを入れ替えながら、70年近くにわたり継続してきました。

第七次椿会は、2013年に赤瀬川原平、畠山直哉、内藤礼、伊藤存、青木陵子の5名で結成されました。同じメンバーで2017年まで年1回の展覧会を開催します。「初心」というサブタイトルは、「3.11」から復興していく過程において、初心を問い直す時期にあるのではないかとメンバーと共に話し合い、決めたものです。「初心」とは、「何かをやろうと思いついた当初の純真な気持」(三省堂『新明解国語辞典』より)。「初心忘るべからず」は、芸の知恵を説いた世阿弥の書に、人生の様々な段階において未経験のことに挑戦していく心構えであることと記されています。

展覧会のロゴは、常に「初心」に立ち返る象徴として、グラフィック・デザイナーの仲條正義が毎年新たにデザインしています。

本展は、第七次椿会の4回目の展覧会となります。昨年、椿会で初となるダンスの分野から、島地保武(ダンサー・振付家)が新たなメンバーとして加わりました。今回島地は、自身初となる造形作品を展示すると同時に、会期中に関連企画としてパフォーマンスを行う予定です。昨年9月から今年の2月まで文化庁文化交流使としてメキシコに滞在した畠山直哉は、同地で撮影した風景作品を発表します。そして、内藤礼は、2013年の初回到初めて「color beginning」と名付けた絵画のシリーズをはじめとする平面・立体の新作を展示予定。伊藤存は、銀座周辺で行った生き物調査(昆虫採集など)をもとにしたドローイングのアニメーションを展示する予定です。青木陵子は、椿会の他のメンバーとやりとりしながらzine(冊子)を作ります。また、zineと並行して自身の作品も制作する予定です。赤瀬川原平は、2014年には90年代、2015年には80年代と、作品の制作年代をさかのぼって展示してきましたが、今回は70年代のペン画を展示する予定です。

今回の椿会展も「初心」をテーマに新たに制作、選んだ作品がならびます。ぜひご期待下さい。

なお、同時期に資生堂銀座ビル、SHISEIDO THE GINZA、東京銀座資生堂ビルでは、資生堂ギャラリーを創設し写真家としても活躍した、初代社長・福原信三と弟・路草の写真を中心とした展覧会を開催いたします。*

■ 出展作家 プロフィール

赤瀬川 原平 (あかせがわ げんぺい)

1937年横浜市生まれ。2014年逝去。画家。作家。路上観察学会会員。前衛芸術家。美術史に残る千円札裁判の被告、イラストレーターなどを経て、1981年『父が消えた』(尾辻克彦の筆名)で第84回芥川賞受賞。1989年には映画『利休』の脚本を勅使河原宏と共同執筆し、日本アカデミー賞脚本賞受賞。著書に『新解さんの謎』(文春文庫)、『超芸術トマソン』『老人力』(以上、ちくま文庫)、『世の中は偶然に満ちている』(筑摩書房)、『ライカもいいけど時計がほしい』(シーズ・ファクトリー)など多数。「老人力」は1998年の流行語となる。近年の主な展覧会：2008年「氾濫するイメージ 反芸術以後の印刷メディアと美術 1960's-70's」うらわ美術館；2010年「赤瀬川原平写真展—散歩の収穫」横浜市民ギャラリーあざみ野；2012-13年「TOKYO 1955-1970/新しい前衛芸術」ニューヨーク近代美術館；2013年「ハイレッド・センター：『直接行動』の軌跡」名古屋市美術館、渋谷区松濤美術館；2014年「尾辻克彦×赤瀬川原平 文学と美術の多面体展」町田市民文学館ことばらんど；2014-15年「赤瀬川原平の芸術原論展—1960年代から現在まで」千葉市美術館、大分市美術館、広島市現代美術館。

畠山 直哉 (はたけやま なおや)

1958年岩手県陸前高田市生まれ。東京在住。筑波大学芸術専門学群にて大辻清司に師事。1984年に同大学大学院芸術研究科修士課程修了。以降東京を拠点に活動を行い、自然・都市と写真のかかわり合いに主眼をおいた、一連の作品を制作。2001年に中村政人、藤本由紀夫とともにベネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館にて展示。2011年に東京都写真美術館で個展「畠山直哉 ナチュラル・ストーリーズ」(平成23年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞)を開催など、国内外の数々の個展・グループ展に参加。2012年、ベネチア・ビエンナーレ国際建築展の日本館に参加(国別参加部門金獅子賞受賞)。平成27年度文化庁文化交流使として5か月間メキシコに滞在。

内藤 礼 (ないとう れい)

1961年広島県生まれ、東京在住。1985年武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科卒業。1991年、佐賀町エキジビット・スペースで発表した「地上にひとつの場所を」で注目を集め、1997年には第47回ベネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館にて同作品を展示。主な個展：1995年「みごとに晴れて訪れるを待て」国立国際美術館；1997年「Being called」カルメル会修道院(フランクフルト)；2005年「返礼」アサヒビール大山崎山荘美術館；2007年「母型」入善町 下山芸術の森 発電所美術館；2009年「すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している」神奈川県立近代美術館 鎌倉；2014年「信の感情」東京都庭園美術館など。パーマメント作品として2001年「このことを」家プロジェクト『きんぎょ』(直島)、また2010年には豊島美術館にて「母型」を発表。2015年には30年にわたる仕事を包括した作品集『内藤礼 | 1985-2015 祝福』(millegraph)が刊行された。

伊藤 存 (いとう ぞん)

1971年大阪府生まれ、京都在住。1996年京都市立芸術大学美術学部卒業。刺繍の作品をはじめとして、アニメーション、ドローイング、彫刻作品を制作。2003年にワタリウム美術館で個展「きんじょのはて」を開催。主なグループ展：2006年「3つの個展：伊藤存、今村源、須田悦弘」国立国際美術館；2009年「Louisa Bufardec i & Zon Ito」シドニー現代美術館；2010-11年「プライマリー・フィールドⅡ：絵画の現在—七つの〈場〉との対話」神奈川県立近代美術館 葉山；2011年「世界制作の方法」国立国際美術館、2012年「別府のミック」(KASHIMA 2012 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE 滞在制作成果展)；2013-14年「Now Japan」Kunsthall KAdE (アメルスフォールト)；2013年「磯部湯画廊/磯部湯活用プロジェクト」旧磯部湯(前橋)；2015年「知らない都市—INSIDE OUT」京都精華大学ギャラリーフロール、京都；「山/完全版のいきいきセンター」京都市立芸術大学ギャラリー@KUCA、京都；「SOMETHINKS」アートラボはしもと、相模原市；2015-2016年「Two Sticks」Think Tank Lab Triennale, ヴロツワウ、ポーランドなど。

青木 陵子 (あおき りょうこ)

1973年兵庫県生まれ、京都在住。1999年京都市芸術大学大学院ビジュアルデザイン科修了。動植物や日常の断片、幾何学模様などをイメージの連鎖で描き、その素描を組み合わせた作品を発表。主な個展：2002年「クリテリオム51」水戸芸術館現代美術ギャラリー；2005-06年「HAMMER PROJECT Ryoko Aoki」ハマー美術館（ロサンゼルス）；2010年「ワイルドフラワーのたね」オン・サンデーズ。主なグループ展：2007年「ドクメンタ12」（カッセル）；「夏への扉—マイクロポップの時代」水戸芸術館現代美術ギャラリー；2009年「ウインター・ガーデン」原美術館；2010年「絵画の庭—ゼロ年代日本の地平から」国立国際美術館；2014年「拡張するファッション」水戸芸術館現代美術ギャラリー、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館；2014年「開館20周年記念 MOTコレクション特別企画：クロニクル1995—」東京都現代美術館；2015年「トレッドソン別邸のため」Troedsson Villa 日光；「Wabi Sabi Shima, from the aesthetic of Perfection and Chaos in the Japanese archipelago」Thalie Art Foundation ブリュッセル；「アーティスト・イン・レジデンス 須崎 現代地方譚3」高知県須崎市；2015-2016年「Two Sticks」Think Tank Lab Triennale, ヴロツワウ、ポーランドなど。

島地 保武 (しまじ やすたけ)

1978年長野県生まれ。日本大学芸術学部演劇科演技コースに入学。モダンダンスに出会う。加藤みや子に師事。2004年から2006年までNoism（新潟市）に所属。2006年から2015年までウィリアム・フォーサイス率いるザ・フォーサイス・カンパニー（ドイツ・フランクフルト）に所属。2013年酒井はな+島地保武によるユニット、Altneu（アルトノイ）を結成。2015年に帰国後、Noism2に『かさねのいろめ』を演出・振付。Shimaji Project を立ち上げ、フォーサイス・カンパニーのメンバー2人を招き原美術館で『glimpse ミエカクレ』、神奈川近代美術館 葉山にて『身奏/休息』を発表。また、神奈川近代美術館 鎌倉館でAltneuで『身奏/記憶』葉山館にて『身奏/始点』、新国立劇場にて『近松リポーターズ』を発表する。2016年4月は環 ROY と共作共演で『ありか』を発表する。

■「椿会展 2016 - 初心 -」開催要項

主催：株式会社 資生堂

会期：2016年4月28日(木)～6月19日(日)

会場：資生堂ギャラリー 入場無料

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-8-3 東京銀座資生堂ビル地下1階

tel. 03-3572-3901 fax. 03-3572-3951 URL: <http://www.shiseidogroup.jp/gallery>

平日 11:00～19:00 日・祝 11:00～18:00 毎週月曜日

■関連企画

島地保武 ダンスパフォーマンス with 環 ROY

日時：5月22日(日) 15:00～16:00

会場：花椿ホール

定員 80名 参加費無料（お申込み多数の場合は抽選となります）

お申込みは3月下旬より資生堂ギャラリーウェブサイト <http://www.shiseidogroup.jp/gallery/>にてご案内

内予定です。お問合せ：tel. 03-3572-3901 fax. 03-3572-3951

*** 資生堂、「美を掬う人 福原信三・路草—資生堂の美の源流—」展
～銀座から文化を発信するプロジェクト「BEAU CROSSING GINZA」第2弾～**

2016年4月5日(火)より、以下内容で開催します。 <http://www.shiseidogroup.jp/ginza/>

施設名	展示概要	会期
資生堂銀座ビル (Ginza Communication Space)	<ul style="list-style-type: none"> ・1F ウィンドー:テーマ「万物資生」(日本の原風景を表現した作品) ・2F:「木・人・景」(信三・路草の未公開作品を中心としたニュープリント 宣伝・デザイン部フォトグラファー金澤正人の作品) 	4/5(火)～6/24(金)
SHISEIDO THE GINZA	<ul style="list-style-type: none"> ・1F ステージ:「椿」(路草が撮影した椿の作品をモチーフとした、フランスの伝統的な技法によるオートクチュール刺繍作品) ・2F:「巴里とセイズ」(信三の写真集「巴里とセイズ」に掲載された作品) 	4/14(木)～6/14(火)
東京銀座資生堂ビル	<ul style="list-style-type: none"> ・1F 展示コーナー: 福原信三の写真を展示 ・4～5F 資生堂パーラー 銀座本店:「銀座と巴里」 ・11F パーエス: 信三の写真集「巴里とセイズ」に掲載された作品より「集う人」をテーマにセレクト 	4/5(火)～6/24(金)

【ご参考:福原信三と資生堂ギャラリー、椿会】

福原信三は、若手作家や前衛芸術家に発表の場を無料で提供し、その活動を支援することを目的として、1919年に資生堂ギャラリーを開設しました。また、自ら展覧会の企画も手掛け、1928年から1931年まで「資生堂美術展覧会」を開催しました。

第二次世界大戦末期に一時閉鎖となり1947年に再開した際、第一線の作家たちに新作を依頼して展覧会を開くという「資生堂美術展覧会」のスタイルを継承し発展させた形で「第一回椿会展覧会」が開催されました。「椿会」は以降、時代とともにメンバーを入れ替えながら今日まで続いています。

<以下余白>

■参考写真(椿会展 2015 より)

①



②



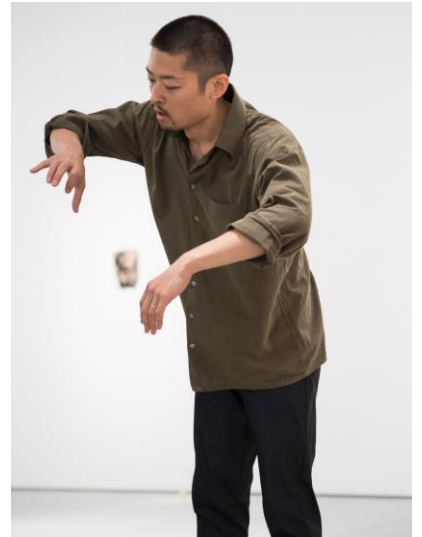
③



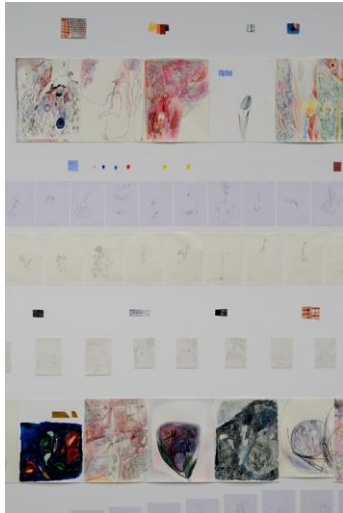
④



⑥



⑤



写真クレジット:「椿会展 2015-初心-」より

- ① 赤瀬川原平『新劇』連載「埋め草」より 1985-1986
- ② 島山直哉 シリーズ「Findling」より 2009
- ③ 内藤礼 無題 2015
- ④ 伊藤存 「みえない土地の建築物 2015 - 2014年9月9日 日比谷公園」 2015
- ⑤ 青木陵子「時間の暇」2015
- ⑥ 島地保武 2015年4月25日パフォーマンス

①~⑤ 撮影: 島山直哉、⑥撮影: 加藤健

■ 写真資料請求は下記までお願いします。
 資生堂ギャラリー 担当: 永田・大橋
 tel. 03-3572-3901 fax. 03-3572-3951
 (11:00~18:00 月曜休)
 e-mail: ayako.nagata@to.shiseido.co.jp
 noriko.hashi@to.shiseido.co.jp

■ 本展に関するお問い合わせは下記までお願いします。
 104-0061 東京都中央区銀座7-5-5
 株式会社 資生堂 企業文化部 担当: 豊田
 tel. 03-3575-5419 fax. 03-3575-5429
 (10:00~17:00 土日祝休)
 e-mail: keiko.toyoda@to.shiseido.co.jp